JICAインターンシップ パナマに日本のモノレールを！

社会建設工学科（東アジア国際コース）４年　山口真理菜

JICAパナマ事務所にて

2019年、大学３年生の夏、中米にあるパナマ共和国の首都パナマシティにて1か月半のJICAインターンシップに参加しました。私の配属先は、「開発コンサルタント型」で、JICAの事業を請け負う日本工営㈱が実施するプロジェクト「パナマ首都圏都市交通３号線整備計画」でした。

【国際協力の仕事に興味をもった経緯】

小学５年生の時にロシアにホームステイしたことをきっかけに異文化交流に魅力を感じ、高校２年生の時にアメリカに１年間留学しました。ミシガンの大自然での生活を通して環境にやさしいまちづくりに興味を持つようになり、インフラについて勉強したいと思うようになりました。その中で、未だインフラ整備が進んでいない発展途上国について知りたいと思い、大学１年生の春に、タイ北部の山岳少数民族の村での道路建設ボランティアに参加しました。雨季になると町につながる唯一の道が遮断され、孤立してしまうという現状を知り、交通インフラの重要性を実感しました。また、現地NPO法人の方がおっしゃった「この小さな村のために政府は動かないんだ。」という言葉がずっと心に刺さっていました。そこで、途上国、先進国がそれぞれ抱える問題の解決に少しでも貢献したいと思い、大学での専攻は土木分野での国際協力の道を選びました。

【インターンに参加したきっかけ】

大学２年生の時に、山口大学主催のJICA東ティモール国立大学教育向上プロジェクトに、技術研修として参加し、環境調査やマニュアル作成をしました。その時、JICAのFacebookで当インターンシップの募集を見つけたのがきっかけです。政府レベルでのインフラ事業に携わっている開発コンサルタントの業務を知ると同時に、実際に海外でインフラ事業に携わっている方がどんな思いで、どんな現状や問題と向き合って仕事をしているのか理解を深めたいと思いました。さらに、交通渋滞の解消に、環境にやさしいモノレールを導入する３号線プロジェクトに心惹かれ、応募しました。

【インターンシップの内容と経験】

パナマメトロ３号線は、中米初のモノレールで、日本製の車両が採用されました。唯一パナマ運河を横断し、首都（東側地域）と比べて生活格差が生じている西側地域を走る路線になっています。

インターンシップ期間中は、現場視察、パナマメトロ公社やJICAとの会議への参加、駅前交差点の交通解析、モノレール計画地域の生活の現状把握と生活改善案の提案、緊急時の避難方法の検討、その他作業補助を行いました。様々な国籍のスタッフと共に１つのプロジェクトを成功へと導くため、日本人プロジェクトマネージャーの方もオフィスではスペイン語を話す姿がとても印象的でした。現地の言語や文化を尊重し、顧客の近くで親身になってサポートをするきめ細かな工夫や気

パナマ運河（太平洋側）

遣いがカウンターパート（パートナー）との信頼を得ることにつながっているのだと強く実感しました。私はスペイン語が全くわかりませんでしたが、自己紹介を練習し、朝や昼、帰り際に、覚えたスペイン語で話しかけたり、おすすめの観光スポットを聞いてみたりするなどして現地スタッフの方との距離を縮めることができました。

駅前交差点の交通解析では、初めて使うソフトを学びながらシミュレーションを作成するのは難しかったですが、現場視察で得た交通状況を再現、渋滞の分析をし、最終的に渋滞の深刻さを報告書にまとめ、渋滞解消案の提案を成果として発表することができ、とても達成感がありました。現地スタッフを含め、コンサルタントの方が英語でサポートしてくださったので、プロジェクトチーム内でそれぞれの進捗状況を共有しながら進めることができました。

休日は、パナマ運河、カリブ海のサンブラス諸島、クジラ見学ツアー等パナマで働く日本人とも交流しながら観光することができ、とても充実した日々を過ごせました。日本大使館の方、JICA事務所の方、青年海外協力隊、様々な業界の方とお話しができ、大変刺激を受けました。

【インターンシップで感じたこと】

コンサルタントの方が大切にしている思いは、インフラ整備によって不利益を被る人、利益を得ない人々の“ケア”を常に考えることだと感じました。モノレール建設のように大きなプロジェクトを行うときには、便益を得る人だけでなく、モノレールを利用しない人や引越しを余儀なくされる人々が必ず存在するので、周辺地域では様々なソーシャルプロジェクトがあることを知りました。本当に必要とされているものが何かを考え、技術があれば生活が改善される人々の手助けができるよう、場所とお金と技術のマッチングの大切さを強く実感しました。

【将来の展望】

将来は、インフラの寿命や災害のリスクを考え、インフラが完成すればよいのではなく、完成後も長く安全に使うためにどうすべきかを常に考えながらも顧客の要望を最大限かなえられるよう提案をしていけるコンサルタントになりたいと思っています。そのために、現在は海外大学院進学を目指し、日本とは違う方面から鉄道インフラについて学びたいと思っています。今回のインターンシップが新たな挑戦のきっかけとなったこと、尊敬できる方々に出会えたことに心から感謝いたします。今まで出会ったすべての人に感謝し、これからも挑戦し続け、楽しい人生を歩んでいきたいと思います。

パナマで有名なかき氷